

進路環境DATA2017

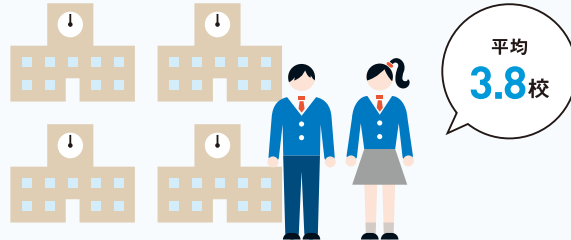
進路ガイダンスの話題に!

そのままコピーして
進路だよりへ!

—「今」が見えてくる最新TOPICS—

進学

● 高校生のオープンキャンパス参加校数

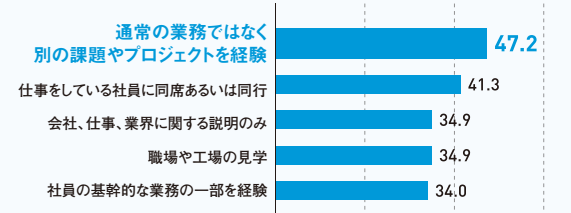


チェックシートも活用し、複数校の比較検討を

大学進学者への調査によると、高校3年間のオープンキャンパス参加率は94.2%。参加校数は1人平均3.8校だ。「学校の隠れた魅力に気づく」「学生の雰囲気を肌で感じる」など、参加の効果は大きい。第1志望校はもちろん、併願校も複数参加し、チェックシートなどで記録を残そう。

リクルート進学総研「進学センサス2016」

● 大学生・大学院生のインターンシップの内容

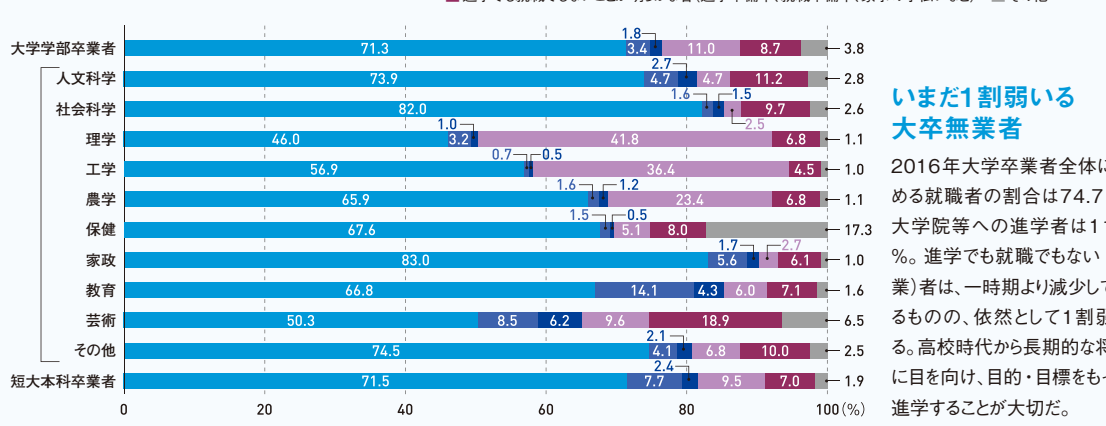


約半数が課題解決型の内容を経験

2017年卒の大学生・大学院生のインターンシップ参加率は43.7%で、4年前の2倍以上に増加した。参加者の半数近くは新規事業立案や売上アップ施策提案などの「通常の業務ではなく別の課題やプロジェクト」に参加。仕事内容の具体的な確認や自分のスキルの見極めなどにつながっている。

リクルートキャリア「就職からい研究所」就職白書2017
※インターンシップ参加者における割合・複数回答/上位5項目のみ掲載

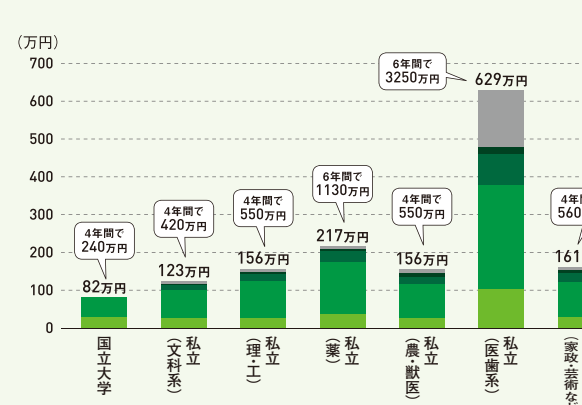
● 大学・短大卒業者の進路状況



文部科学省「学校基本調査」(2016年3月卒業者について) ※「進学者」とは、大学院院科、大学学部、短期大学本科、大学・短期大学の専攻科、別科へ入学した者(就職し進学した者を含む)
※「正規の職員等でない者」とは、雇用期間が1年以上の期間の定めのある者で、かつ通常の所定労働時間が40〜30時間の者
※グラフでは「臨床研修医(予定者を含む)」「専修学校・外国の学校等入学者」「不詳・死亡の者」を「その他」として集計

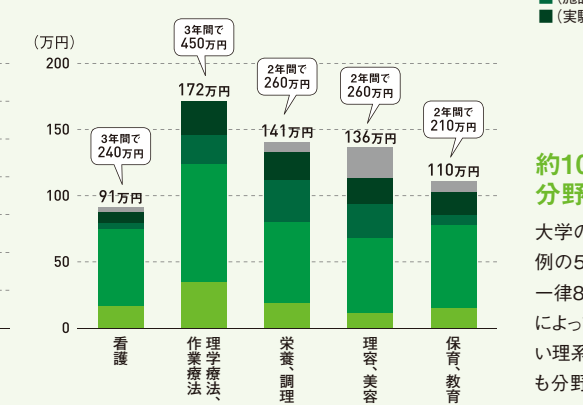
進学費用

● 大学の初年度納付金



文部科学省「平成26年度私立大学入学に係る初年度学納付金平均額(定員1人当たり)」(疑問部)
※国立大学は標準額 ※1万円未満は四捨五入 ※グラフの数字は卒業までにかかる総額の目安

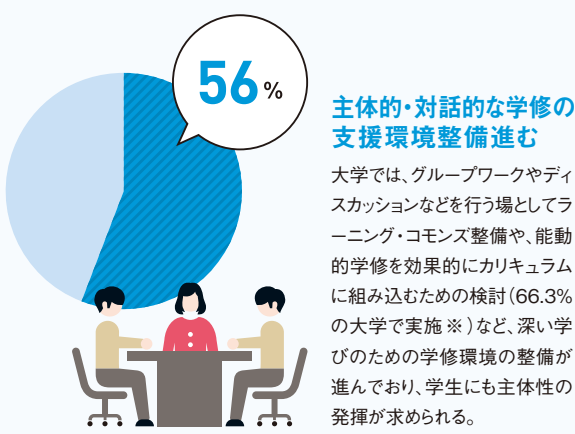
● 専門学校の初年度納付金



東京都専修学校各種学校協会「平成28年度 学生・生徒納付金調査」専門課程(専修学校)平均(年間別)より抜粋
※1万円未満を四捨五入 ※グラフの数字は卒業までにかかる総額の目安

注目!

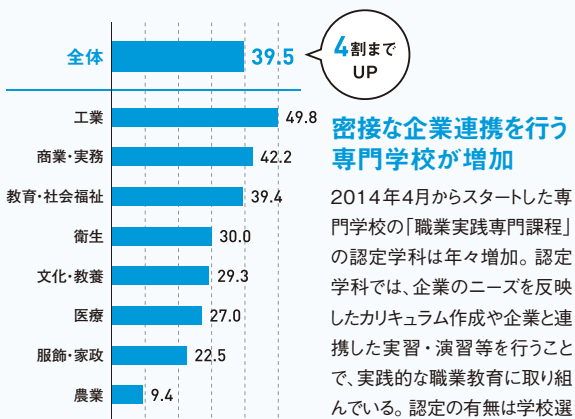
● 大学のラーニング・コモンズ整備・活用状況



文部科学省「大学における教育内容等の改革状況について」(平成26年度) ※本文中の数値も同調査結果より

注目!

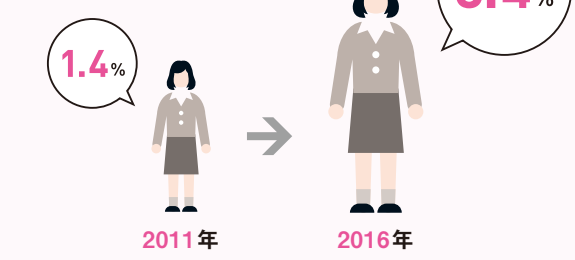
● 「職業実践専門課程」の認定状況



文部科学省「職業実践専門課程」の認定状況(平成29年2月24日現在) ※学科数の割合

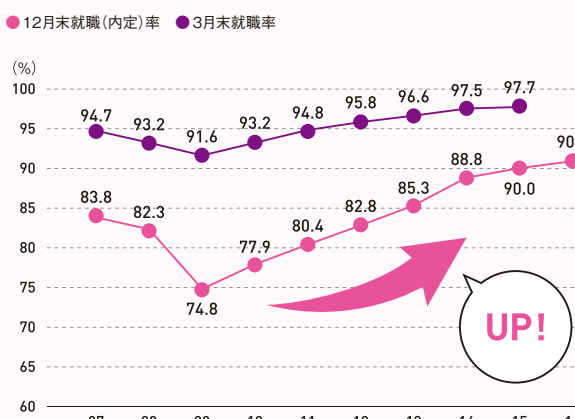
注目!

● 女性役員数の推移



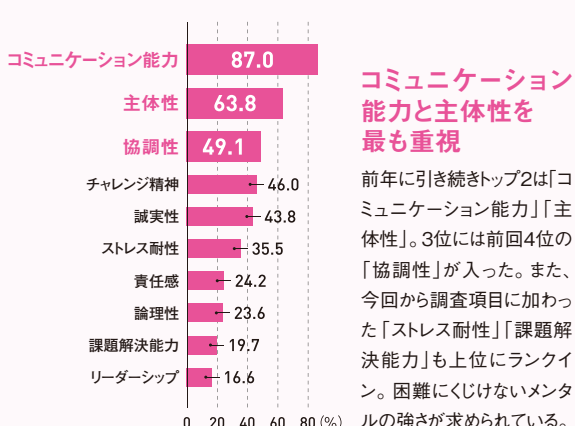
さまざまな分野で女性の活躍を推進 女性の活躍推進は日本の持続的成長のための最重要課題の一つ。男女共同参画に向けた待遇の改善、社会制度の見直しなどが進められている。上場企業役員数の女性比率は5年前の2倍強だが、国はさらに2020年度10%を目標に増加を目指す。こうした環境変化をふまえた就業意識をもつことが必要。

● 高卒者の就職内定状況



文部科学省「新規高等学校卒業(予定)者の就職(内定)状況」(2016年12月末現在) ※2010年度卒業者の11年3月末現在の就職状況については、東日本大震災の影響により調査が困難とする岩手県5校および福島県の5校は、調査から除外

● 大卒採用で企業が重視した点



日本経団連体連合会「2016年度 新卒採用に関するアンケート調査結果」 ※20項目から5つ選択(上位10項目を掲載)

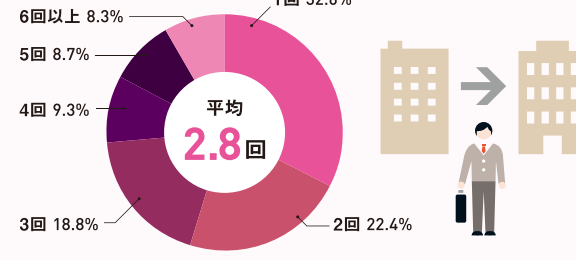
● 一人暮らしの学生の年間生活費



生活費は学費と同程度の額が必要 一人暮らしの大学生の生活費(食費・住居・光熱費・娯楽・好み費など)は年間約104万円、ひと月あたり8〜9万円。そのうち大きな割合を占める住居費は、地域によって大きく異なる。一人暮らしが必要な場合、早めに志望校周辺の賃貸相場を確認し、資金の準備を進めることが大切だ。

日本学生支援機構「平成26年度学生生活調査結果」(専門学校)平均(年間別)より抜粋 ※大学・学部・学年、アパート、その他の区分

● 退職の経験



転職も想定したキャリアプランが必要な時代に 今や働く人の約6割が退職経験者で、その平均退職回数は2.8回。転職はキャリアアップや待遇改善の機会でもある。就職後も専門性を高め続けたり、最新の知識・技術を学ぶなど、自分自身で市場価値を高める努力が求められる。

リクルートワークス研究所「ワーキングハーン調査2014」 ※グラフは退職経験者に限ったもの

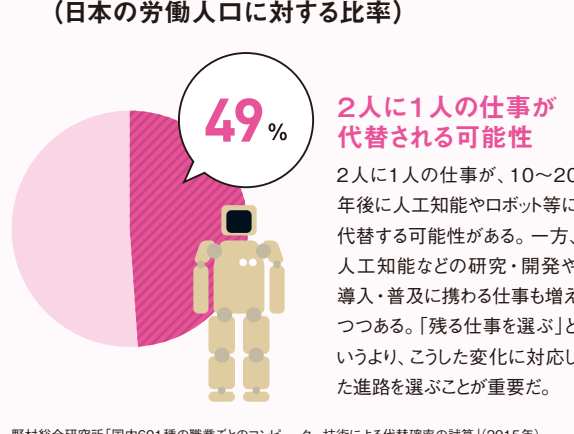
● 大卒求人倍率の推移



リクルートワークス研究所「第33回大卒求人倍率調査(2017年3月)」

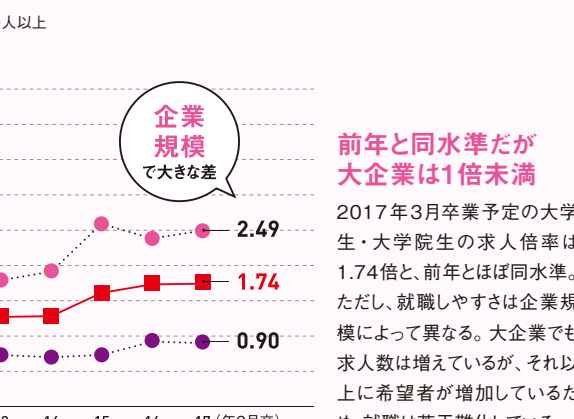
注目!

● 人工知能等に代替される仕事の予測



野村総合研究所「国内601種の職業ごとのコンピュータ技術による代替率の試算」(2015年) ※野村総合研究所とオックスフォード大学オーストン教授、フレイ博士の共同研究。本試算はあくまでもコンピュータによる技術的代替可能性の試算であり、社会環境要因の影響は考慮していない。

● 非正規雇用の割合



高止まる非正規割合。処遇改善の検討進む パートやアルバイト、派遣社員など非正規の職員・従業員の比率は30年間で大きく増加。景気が回復した現在でも高止まりを続けている。非正規雇用の処遇改善のため、同じ仕事であれば正規・非正規で賃金に差をつけない「同一労働同一賃金」の必要性などが議論されている。

1986年：総務省「労働力調査(特別調査)」(2月調査) / 2016年：同「労働力調査(基本集計)」平成28年(2016年)平均(速報)結果